

2008年5月13日 福井新聞にて

ビル反射光 目に有害

金沢医大 共同調査 多角度から紫外線

「反射紫外線」があな
 たの目を狙う。都会の
 オフィス街では直射日光
 が少なくても、ビルや路
 面の反射により目はあら
 ゆる角度から有害な紫外
 線を浴びている恐れがあ
 ることが、金沢医大と医
 療品メーカーのジョンソ
 ン・エンド・ジョンソン
 の共同調査で分かった。

紫外線は視力低下を引き
 起こす「白内障」や「翼
 状片」の原因となる。
 同大の佐々木洋教授
 (眼科学)は「オフィス
 街では上からの紫外線を
 防ぐだけでは不十分。反
 射や散乱光が強くと、日傘
 の効果は小さい」と指摘。
 サングラスやUV(紫外
 線)カットのコンタクト

レンズが有効という。
 調査は昨年九月、東京
 都千代田区のオフィスビ
 ル前(路面はタイルと大
 理石)に、目の部分に紫
 外線センサーを埋め込ん
 だマネキンを設置。日の
 出から日没にかけて顔の
 向きを変えながら、目に
 入る紫外線量の変化を観
 測した。

その結果、常に太陽に
 背を向けていても、目に
 入る紫外線は太陽に顔を
 向けた状態の最大60〜70
 %に達した上、朝夕と昼
 を比較しても目が浴びる
 紫外線量にあまり変化が
 ないことも分かった。

